

2026年9月7日

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社
三井住友海上火災保険株式会社
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
MS&ADインターリスク総研株式会社
MS&ADグランアシスタンス株式会社

～愛知県豊田市の実証実験に参画し、自動運転支援機能の有効性を検証～

遠隔監視およびリスク・安全性評価による自動運転の運行支援体制を構築

MS&ADインシュアランスグループの三井住友海上火災保険株式会社（代表取締役社長：海山 裕）、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社（代表取締役社長：新納 啓介）、MS&ADインターリスク総研株式会社（代表取締役社長：宮岡 拓洋）、およびMS&ADグランアシスタンス株式会社（代表取締役社長：鈴木 省一）は、安全・安心な自動運転の社会実装に向け、遠隔監視および走行前後のリスク・安全性評価による自動運転の運行支援体制を構築しました。9月14日から、MONET Technologies 株式会社が事業全体のマネジメントを行う愛知県豊田市の実証実験への参画を通じて、支援機能の有効性を検証します。

グループ各社が培ってきた強みや知見を活かし、走行前のリスク評価、走行中の遠隔監視、および走行後の運転評価を一気通貫して実施することで、自動運転の安全な運行や事故リスクの低減を支援し、持続可能で利便性の高い移動サービスの実現に貢献していきます。

1. 背景

人口減少や高齢化に伴うドライバー不足、地方における移動手段の減少等の社会課題が広がる中で、自動運転は、地域交通の維持、輸送効率の向上、交通事故の削減、移動困難者の支援に資する技術として期待されており、実用化に向けた取組みが加速しています。一方で、自動運転車両が公道で安全に運行するためには、技術面の検証に加え、走行ルート上のリスク把握、遠隔監視体制の整備、走行データに基づく継続的な改善など、運用面・管理面の体制整備が求められます。

当社グループが損害保険事業を通じて培ってきた事故削減の知見、リスク評価・分析力、事故発生時の対応ノウハウを活用し、自動運転の社会実装に貢献することを目指します。

2. 概要

グループ各社の専門性を掛け合わせ、走行ルート上のリスク評価、走行中車両の遠隔監視、異常発生時のオペレーター対応、テレマティクス知見を活用した走行データ分析を実施する体制を構築しました。

<フェーズごとの各社役割>

自動運転車両				
	走行前	走行中		走行後
	MS&AD インターリスク総研	三井住友海上	MS&AD グランアシスタンス	あいおいニッセイ同和損保
専門性	交通安全分析・リスク評価	リスク管理・運用設計	緊急時初動・連携対応	走行データ分析・可視化
役割	走行ルート上の 安全性事前評価 ✓実証ルートの構造・交通実態把握 ✓走行時・乗降時の潜在リスク抽出	遠隔監視体制の設計 ✓自動運転レベル4を見据えた 監視体制整備 ✓監視手順・役割設定、異常発生 時の対応	遠隔監視業務 (オペレーター対応) ✓遠隔監視のオペレーター対応 ✓異常発生時の現場駆け付け手配	テレマティクスノウハウを活用した 自動運転車両の安全性評価 ✓自動運転走行データの収集・分析 ✓自動運転特有の走行特性や リスクの抽出・評価
期待 効果	✓自動運転車両走行の安全性向上	✓遠隔監視コストの適正化 ✓異常発生時の安全性向上	✓1対N台の遠隔監視の実現 ✓遠隔監視業務の標準化	✓保有するテレマティクスデータとの 比較による安全性の評価・可視化 ✓自動運転車両のさらなる安全性 向上

3. 参画する実証実験について

自動運転レベル4（一定の条件下で、システムがすべての運転操作を実行）に向けた技術的安全性等を検証するため、愛知県豊田市は、市街地・山村・郊外の異なる交通環境で乗客を乗せて自動走行する実証実験を実施します。本実証実験では、MONET Technologies 株式会社が事業全体のマネジメントを行い※、当社グループは、遠隔監視支援、走行環境調査、走行データ分析等の役割を担います。

※ [愛知県豊田市の自動走行実証に協力](#)（MONET Technologies 2026年9月7日お知らせ）

<運行概要>

■市街地

期間	2026年9月14日 ～ 2027年2月26日
区間	豊田市駅（若宮町）～豊田スタジアム東（広川町）

■山村

期間	2026年11月上旬 ～ 2027年2月26日
区間	道慈小学校（千洗町）～小原中部小学校（遊屋町）～本城小学校（市場町）

■郊外

期間	2027年2月上旬 ～ 2027年2月26日
区間	名鉄三河線土橋駅（土橋町）～愛知環状鉄道三河豊田駅（山之手）

4. 今後の展開

MS&ADインシュアランス グループは、本実証実験への参画を通じて得られる知見をもとに、自動運転に関するリスク・安全性評価、遠隔監視、運行支援、事故対応など、各分野の連携をさらに深めていきます。今後、グループ各社の強みを掛け合わせ、自動運転の社会実装に必要な支援機能の高度化を図るとともに、社会課題解決に資する新たな移動サービスの実現に貢献していきます。

以 上